

人文社会科学系研究における 不適切な研究行為 ～グレーゾーンを理解する～

2018年12月3日

於 APRIN主催セミナー「人文学・社会科学における公正な研究活動のために」

信州大学 特任助教（医学部）
一般財団法人公正研究推進協会 主任研究員

野内玲

nouchi@shinshu-u.ac.jp



私の研究背景と専門

医学部に所属しているが専門は人文社会科学系

- 名古屋大学工学部応用物理学科→同文学部人文学科→同大学院前期後期課程→非常勤講師など→CITI Japanプロジェクト→現在に至る
- 専門は**科学哲学**：しばしば社会的に無意味と言われ、科学者からも嫌われる。
- 分野の特性：内容の新規性だけでなく、（仮に同じ内容であっても）論証の妥当性、巧みさが評価される。科学者には理解されない。
- 適切な事例（思考実験、仮想事例、科学の具体例）の提示による議論展開が評価。科学者からは「いまどき**年前の事例を使って」意味不明だと言われる。
- 伝統的な問題に新たな道具立て（自/他分野の概念、実験成果など）を用いて問題を再解釈・再構築する視点が評価される。科学者からはスルメ（生でなく干からびた対象）の研究だと言われる。
- 専門分野において研究不正は少ない？：海外文献の翻訳、紀要論文での盗用がメインか

1

研究不正が問題となる領域

Retraction Watch

Tracking retractions as a

2018年版

Who has the most retracted articles leaderboard

with 25 comments

Ever since we broke the news about the retraction of articles on gay marriage, we've been getting a lot of people to ask us: Who has the most retracted articles?

Well, we've tried to answer that in the past, but it's a moving target.

Here is the current list (click [here](#) for more details).

1. [Yoshitaka Fujii](#) (total retractions: 183)
2. [Joachim Boldt](#) (96)
3. [Peter Chen](#) (60)
4. [Diederik Stapel](#) (54)

1. [Yoshitaka Fujii](#) (total retractions: 183) See also: [Final report of investigating committee](#), [our reporting](#), [additional coverage](#)
2. [Joachim Boldt](#) (96) See also: [Editors-in-chief statement](#), [our coverage](#)
3. [Diederik Stapel](#) (58) See also: [our coverage](#)
4. [Adrian Maxim](#) (48) See also: [our coverage](#)
5. [Yoshihiro Sato](#) (46) See also: [our coverage](#)
6. [Chen-Yuan \(Peter\) Chen](#) (43) See also: [SAGE](#), [our coverage](#)
7. [Jun Iwamoto](#) (41) See also: [our coverage](#)
8. [Fazlul Sarkar](#) (41) See also: [our coverage](#)
9. [Hua Zhong](#) (41) See also: [journal notice](#)
10. [Shigeaki Kato](#) (39) See also: [our coverage](#)

The largest-ever database of retracted articles suggests the burgeoning numbers **reflect better oversight, not a crisis in science.**

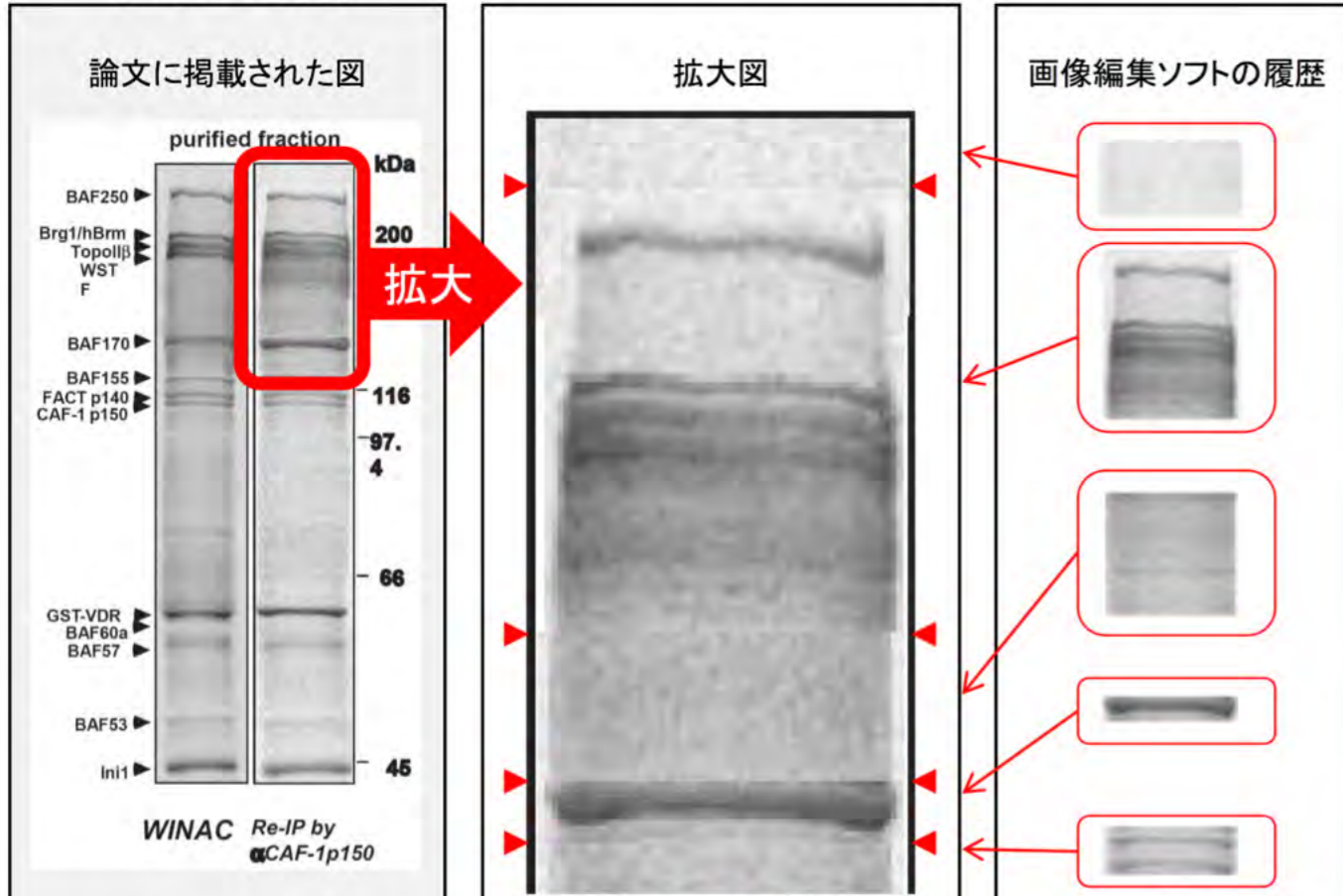
Jeffrey Brainard, Rethinking retractions, Science 26 Oct 2018:

Vol. 362, Issue 6413, pp. 390-393. DOI: 10.1126/science.362.6413.390

東京大学分子生物研究所旧加藤研究室における論文不正に関する調査（中間報告）の報道発表資料

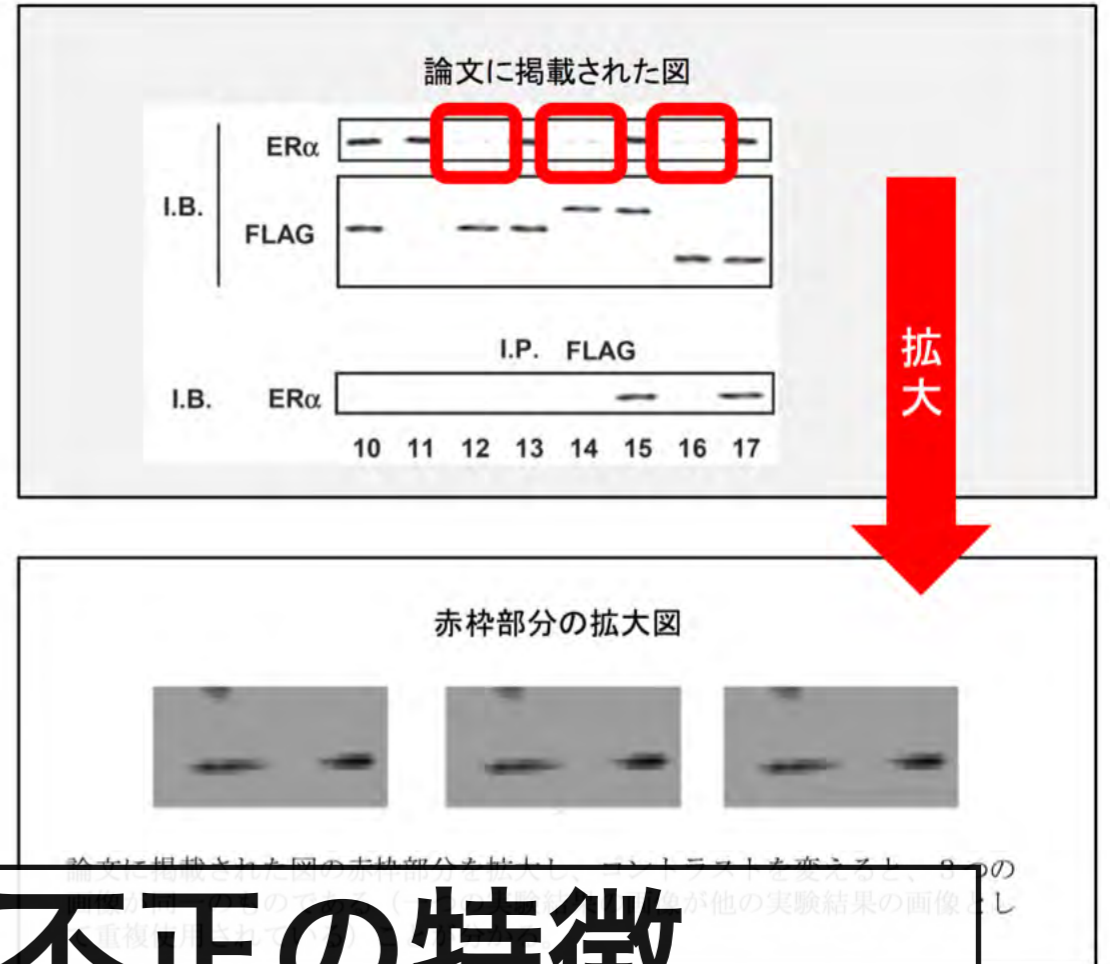
<画像の貼り合わせの例>

実験結果を単一の画像を使って示すべきところが、複数の画像を貼り合わせた状態で示されており、かつ、そのことに対する説明が論文で行われていない。
(やむを得ない理由がある場合は、所要の注記を付すことで画像の貼り合わせが許容されることもある)



<画像の流用・転用の例>

異なる実験結果の画像の一部または全部が使用されている。



バイオ系の研究不正の特徴

可視的な不正行為（捏造・改ざん）

(参考) 上記の図は、実験結果を単一の画像を使って示すべきところが、複数の画像を貼り合わせた状態で示されており、かつ、そのことに対する説明が論文で行われていない。そのため、適切でない。

※本ページで事例として挙げている論文との直接の関係はない。

異なる実験結果の画像の一部または全部が使用されている。

※本ページで事例として挙げている論文との直接の関係はない。

2

人文社会科学系の研究不正

「文部科学省の予算の配分又は措置により行われる研究活動において不正行為が認定された事案（一覧）」より抜粋

年	機関・部局等	専門・職位	不正内容
2015	藤女子大学 文学部	社会学/准教授	共同研究者が執筆した報告書から紀要に盗用
	電気通信大学 共通教育部	共通教育部/教授	元指導学生との共著論文で32行を盗用、 ベースとなった元指導学生の卒論では 文献表に載っていたので存在は知っていた
	早稲田大学 商学部	経営学/准教授	3名の専門職学位論文から図表等の盗用
2016	筑波大学 人文社会系	政治学/准教授 (当時)	論文の盗用（本人は出典を忘れただけと抗弁。 本文の構成に加え、脚注までほぼ同一）
	上智大学 外国語学部	政治学/教授	盗用（告発者から計10箇所、合計29行の指摘） 告発論文全17ページ計449行に対して6.4% また、自己盗用も認められた
	昭和女子大学	言語学/特命教授 (当時)	元指導学生の修士論文（未公刊）の文章 及びデータを盗用
	金沢星稜大学 経済学部	経営学/准教授 (当時)	昇格審査で提出された著書論文において、 多数の論文・webサイトから盗用 理由：日常会話に比べ、日本語がこなれすぎ ⁷

年	機関・部局等	専門・職位	不正内容
2017	兵庫教育大学 教育研究科	教育学/准教授	地方自治体のwebサイトからの盗用 自身の過去の論文からの自己盗用（1/4の分量）
	滋賀大学 教育学部	教育工学、科学教育/教授（当時）	盗用（他の研究者、共著者）、改ざん（自己の過去のデータに手を加えて再利用）
	北九州市立大学 外国語学部	政治学/准教授	盗用（同一の文章、論理構成の同一性、引用の不適切性）、一般書であることを理由に抗弁
	倉敷芸術科学大学 芸術学部	文学/教授 （故人）	紀要にて一部の句読点・文字使いを除き、原文を流用。昇任人事のための業績水増しの疑い
	北海道大学	言語学/学振 外国人PD	学会発表および予稿集において盗用 口頭発表には制限がないと理解していた
	高崎商科大学 商学部	地域学/教授 （当時）	研究ノート1報（本文389行中、約251行） 論文1報（761行中、約553行）において、 参考文献から抜粋・加筆
	豊岡短期大学	社会福祉/講師	盗用：論文1報のほぼ全てが他者の論文

人文系の研究不正（盗用以外）

・捏造

- ・インタビュー・アンケート調査結果
- ・グラフや図を含む実験データ
- ・発掘調査、存在しない先行文献への言及
- ・他人の文献の曲解



2000年11月

・改ざん

- ・インタビュー・アンケート調査結果
- ・グラフや図を含む実験データ
- ・他人の文献の曲解

2018年11月

朝日新聞デジタル > 記事

東洋英和女学院院長に研究不正疑い 引用論文存在せず？

磯村健太郎、大内悟史 2018年11月9日21時44分

シェア 530 ツイート 54 フォーマット メール 印刷



学校法人・東洋英和女学院（東京都港区）が、学界や論壇で受賞を重ねる深井智朗（ともあき）院長の著書に「研究活動上の不正行為の疑いがある」として、学内調査委員会を設置することが9日わかった。深井氏が引用した神学者の論文の存在が確認できていないという。

問題の著書は「ヴァイマルの聖なる政治的精神——ドイツ・ナショナリズムとプロテスタンティズム」（岩波書店、2012年刊行）。4ページにわたり、「カール・レープラー」という名の神学者が書いたとされる論文「今日の神学にとってのニーチェ」に基づいて論考が展開されているが、当の論文の書誌情報は示されていない。

関係者から一部に「創作」の疑いが指摘されている深井智朗・東洋英和女学院院長の著書「ヴァイマルの聖なる政治的精神」（岩波書店）

[PR]

1,500 scientists lift the lid on reproducibility

Survey sheds light on the 'crisis' rocking research.

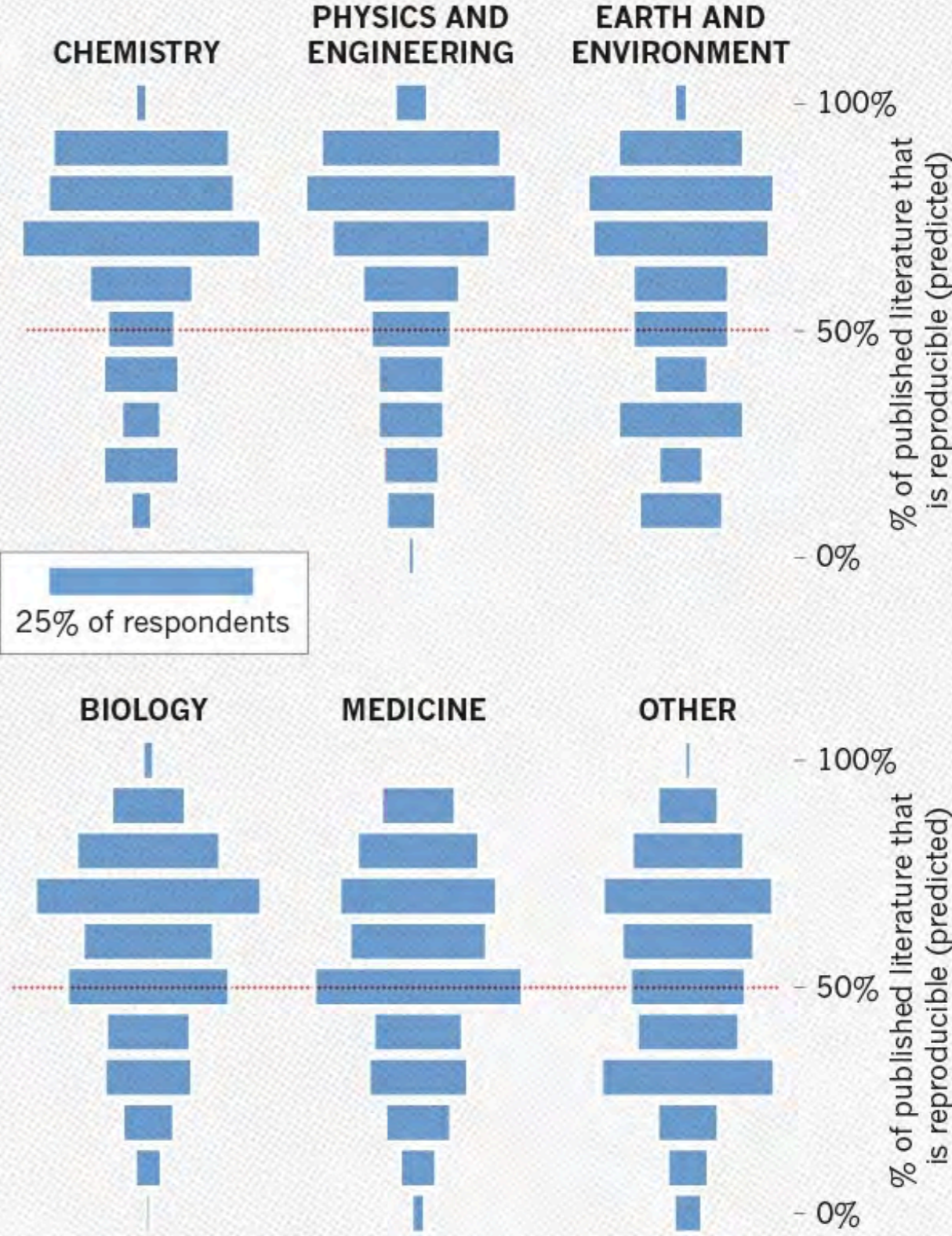
- [Monya Baker](#)

1. 25 May 2016 Corrected: 28 July 2016

<https://www.nature.com/news/1-500-scientists-lift-the-lid-on-reproducibility-1.19970>

HOW MUCH PUBLISHED WORK IN YOUR FIELD IS REPRODUCIBLE?

Physicists and chemists were most confident in the literature.



Number of respondents from each discipline:
 Biology 703, Chemistry 106, Earth and environmental 95,
 Medicine 203, Physics and engineering 236, Other 233

IS THERE A REPRODUCIBILITY CRISIS?



©nature

©nature

人文社会科学系と再現性

巻号一覧



59 巻, 1 号

選択された号の論文の18件中1~18を表示しています

メタデータをダウンロード

すべての抄録を表示する

1

特集：心理学の再現可能性

60 巻 (2017)

+

59 巻 (2016)

-

4 号 p. 349-

3 号 p. 215-

2 号 p. 143-

1 号 p. 1-

58 巻 (2015)

+

57 巻 (2014)

+

56 巻 (2013)

+

55 巻 (2012)

+

54 巻 (2011)

+

心理学の再現可能性：我々はどこから来たのか我々は何者か 我々はどこへ行くのか

友永 雅己, 三浦 麻子, 針生 悦子

2016 年 59 巻 1 号 p. 1-2

発行日: 2016年

公開日: 2018/04/13

DOI https://doi.org/10.24602/sjpr.59.1_1

ジャーナル フリー

PDF形式でダウンロード (677K)

原著論文

心理学における再現可能性危機：問題の構造と解決策

池田 功毅, 平石 界

2016 年 59 巻 1 号 p. 3-14

発行日: 2016年

公開日: 2018/04/13

人文社会科学系と再現性

- 心理学以外でも**統計的な手法を用いる全ての分野**（経済学、社会学、教育学etc）において再現可能性の問題が関わる。
- 統計を扱わない文献読解や文献解釈研究において、**誤読**や**解釈の幅**という形で片付けられてきていた指摘は、実は**他の研究者から見て再現できない**という意味
- これらは教育指導やピアレビューの過程で修正できる（QRP）。だが、その程度や発表のタイミングによっては**改ざん**や**捏造**にもなることを意識すべき。

文理というセクショナルリズム バイアスがもたらす罣

- 文では単独研究がメイン、「データ」も取らない、という思い込みがあるため、ミスコンダクトに**鈍感**になる。
- 文では「一見して分からない」捏造と改ざんの例が含まれる
- 潜在的「不正」は相当数にのぼると思われる。1%の確信犯以外は**知識と意識**の欠如によって（意図せずして）不正認定される。
 - オーサーシップや謝辞の扱いに慣れているか
 - データの多様性（取得対象、方法、保存）に関する適切な教育があるか
 - 実験記録に類したものをつけているか
 - 分野横断的な共同実験の際の相互理解はあるか

「研究不正をしない」 教育から

「よい研究作法を知る」 教育へ

- **後ろ向きな動機**：身分が剥奪されるから、分野での評判が落ちるから、研究が停止されるから、納税者に説明責任がつかないから、研究者倫理を学ぶ
- **研究が生み出す価値に注目**
 - 研究不正は、学術活動・研究活動における他の研究者に対する敬意の欠如、知識生産という営みに対する冒涇である。**この認識は分野を問わない**
 - 人文社会科学研究の価値：人間社会におけるメタ的な概念の探索、人類の叡智の継承、etc...
- **前向きな動機**：適切な研究作法を知ること、他者からのフィードバックが得やすくなり、研究活動が促進する

不正行為の程度

<p>特定不正行為：FFP</p>	<p>捏造(Fabrication)・改ざん(Falsification)・盗用(Plagiarism)</p> <p>意図的な不正行為。発生した場合にコミュニティに与える影響が大</p>
<p>疑わしい研究行動：QRP</p> <p>Questionable Research Practice</p>	<p>研究者が日常的に直面する、発生頻度が高いもの（例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究データの不適切な管理（非保管等） ・ 不十分な研究指導 ・ 不適切な統計的誇張 ・ 重複投稿、分割（サラミ）発表 ・ インフォームドコンセントの非成立 ・ 動物倫理の無視 ・ 先行研究の不十分な調査 ・ 不適切なオーサーシップ ・ 自説に有利な実験結果の選択的発表（不利な結果の非発表） ・ 不適切なピア・レビュー ・ 利益相反の非開示
<p>責任ある研究活動：RCR</p> <p>Responsible Conduct of Research</p>	<p>研究者という専門職として「正直さ(Honesty)・正確さ(Accuracy)・効率性(Efficiency)・客観性(Objectivity)」などの基本的価値観を共有し、それらの価値を尊重して行われる研究計画の立案、実践、成果発表などの行動</p> <p>Research Integrity + Research Ethics</p>